

## 33年ぶり快進撃

今年の夏の甲子園は台風のため開会式が2日順延になりました。開会式の順延は52年ぶりとのこと。その夏の高校野球の大阪大会では我が母校岸和田産業高校(略称:岸産)が33年ぶりにベスト16まで進出し快進撃を遂げました。7月26日私は大阪大会5回戦の対明星高戦を舞洲球場にて観戦しました。岸産は1点を先制したものの7回表に3点をとられ逆転されましたが、その裏1点を返して1点差、さらに9回裏には1点をいれ3対3と追い付きなお2アウトランナー2塁とサヨナラのチャンス。バッターは空振りの三振でしたがキャッチャーがボールを大きく横に弾き、バッターは振り逃げで2塁ランナーがホームまで返ってきましたが、間一髪主審が一瞬間をおいて右手を上げアウト!延長10回表明星が1点をいれその裏岸産は0に抑えられ残念ながら3対4と惜敗、ベスト8の夢は消えました。

岸産はその前の試合4回戦では、大リーグで活躍する上原投手の母校である強豪東海大仰星戦で9回裏1対5から4点差を跳ね返して一挙5点を入れサヨナラ勝ちするという奇跡の大逆転を演じていました。この試合も最後まであきらめずに良く粘りましたが相手が一枚上でした。大阪大会の出場校は180校と全国でも3位の激戦区。そこでのベスト16は立派な成績です。

実は33年前の1981年7月29日、当時高校球児であった私は日生球場でベスト4をかけて準々決勝を戦いました。惜しくも0対1と今回と同じ1点差で惜敗しました。当時の大阪大会参加校は147校でしたが、その中でのベスト8は今も誇りに思います。私も久しぶりに生で後輩たちの試合を観戦し、最後まで諦めない姿勢をみて感動と勇気ももらいました。記録を辿ると、岸産は1981年からさらに29年前に準々決勝で敗れた相手も明星だったそうで、スコアも同じ0対1、因縁を感じます。

ところで、来年から相続税の大幅増税が決まっており、新聞や雑誌が盛んに特集を掲げています。正に「相続バブル」といえないほど各種セミナーなどは盛況です。私も専門家ではありませんが、いわゆる相続税対策に関する各種商品の勉強も兼ねて積極的に受講しています。そもそも相続税対策とはなんのためにするのか、本末転倒にならないよう気をつける必要があります。税金対策全般にいえることですが、税金を減らすというのは財産をより多く残すことにつながるの、税金対策というのは財産を残すための本来手段であるべきなのですが、税金を減らすことが目的化し、結果的に財産も大きく減らしている事例を多く見受けられるので、業者にあおられることなく焦らず冷静に対策を打つ必要があります。

相続税対策の基本は前回も書きましたが生前贈与で、その次は資産の組換えです。相続税法上の評価額がより低いものに組み替えることですが、この対策が最も落とし穴が多くリスクが高いものとなります。バブル期には借入してアパートやマンションを建築したり一棟の収益マンションを購入したりさらに変額保険などいわゆる節税商品が氾濫していましたが、その多くは後のバブル崩壊とともに悲惨な目になり、確かに相続税は減ったがそれ以上に財産も減らし、今も空室を多く抱えた賃貸物件を所有し苦境に陥っている事例を多く見かけます。

資産の組換えで重要なのは組み替えた財産の出口戦略です。たとえば純金製の「おりん」というのがあります。相続税法上仏壇仏具は非課税ですので、純金製の「おりん」1000万円(650g)を買ったとします。相続税法上課税される預金から「おりん」という非課税財産(但し投資の対象として有するものは時価換算で課税されますので注意)に組み替えたことになり、相続税の税率が30%とすると、1000万円×30%で300万円相続税が減少します。

ところでこの純金製の「おりん」将来なんらかの事情で売却することになった場合にいくらで売れるか、つまり出口が問題となります。現在の金の買取り価格は4600円/gですので、この「おりん」の純金としての資産価値は4600円×650g=約300万円です。工芸的価値を含めればもっと高いのかもしれませんが、もし純金の相場である300万円でしか売れないとなれば、1000万円の支出に対して、相続税の減額分300万円+売却額300万円プラスの効果は600万円、差引400万円の損ということになります。将来金相場が大きく上昇しない限り、相続税は減りましたがそれ以上に財産も減らしたことになり、なにをしてるこっちゃわかりません。

非課税財産への組換えで最もリスクが少なく、即効性が高いものは生命保険の非課税枠を使った対策です。相続税法上、生命保険金は法定相続人×500万円までは非課税ですので、非課税枠まで達していない方である程度預貯金をお持ちの方にとっては効果的です。あまり高齢や病気がちだと生命保険に加入できないのでは思われるかもしれませんが、最近では90歳まで入院さえしていなければ加入できる終身保険も発売されていますので、生前贈与と合わせて行えば非常に効果的な対策だと思います。